

# つむぎの郷サウンドフェスタの想いを受け継ぐ 結城ジャズフェスティバル



平成8年から27年まで開催された「つむぎの郷サウンドフェスタ」

**市長** それではまず、お二方の自己紹介をお願いします。

**宮本** 永横町の生まれで、5歳ごろからエレクトーンを始め、結城東中では吹奏楽に励みまし。映画音楽の作曲がやりたいと、恩師たちの勧めで高校を卒業してすぐアメリカ・パークリー音楽大学に留学しました。

初めは、ジャズピアニストになりたいという想いは全くなかったのですが、この大学に入ってから「ここってジャズの名門校だったんだ」みたいな感じで、いつの間にかジャズの演奏活動を始めていましたね。その後、ニューヨークやアトランタを拠点に活動しつつ、ジョージア州立大学でジャズ教育について学びました。

アトランタの土地柄が気に入って家も買っていたので、当初

結城に戻るつもりはなかったのですが、結婚して2人の子どもを出産し、子育ては両親や親戚のそばがいいと思ったので、そのタイミングで結城に戻ってきました。

いまは結城を拠点に作曲・演奏活動をしながら、東京都立川市にある国立音楽大学で、ジャズ専修の講師もしています。

**渡邊** 私は桜川市岩瀬の出身で、私が通った岩瀬西中学校はマーチングバンドに力を入れていたので、中学時代はマーチングバンドにどっぷりハマりました。高校では吹奏楽をやり、進学した大学で偶然入ったサークルがジャズのサークルで、「ジャズってほかの音楽と全然違うじゃん」とカルチャーショックを受けながら、マーチングバンドと二足のわらじで音楽をやっていました。

卒業後は県立高校の講師から

教諭となり、大洗高校のマーチングバンドをトータル12年間、そして現在の下館工業高校でジャズバンド部を11年間指導しています。全国各地の大会やイベントに出場させていただいて、コロナ流行前の2019年度は、年間50回ほど演奏していました。

最近は少しずつ演奏の機会も増え、先日も県立歴史館のイベントで演奏したのですが、お客さんから「私たちもこれを待っていたんだ」という言葉をいただいて、やはり生の演奏を聴く機会があるのは本当に素晴らしいことなんだと、深く感じた次第です。

本職は社会科で、高校生のときは日本史が大好きで、今も文化財保護指導員をしています。

**市長** ありがとうございます。私も市長として、結城の知名度アップと「結城ファン」をたくさん作りたいという想いがあります。

その中で、平成8年から27年までけやき公園で行われていた「つむぎの郷サウンドフェスタ」では、集まった何千人という音楽ファン、ジャズファンの中から結城ファンがたくさん増えました。

そのような方々にもう一度結城にお越しいただき、改めて「結

城ファン」になっていただいて、できればそのまま結城に住んでもらいたいという想いから、「結城ジャズフェスティバル」を復活することにいたしました。

元々は2021年8月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2022年2月に延期となりました。とにかく、市民の皆さん、そして多くのジャズファンの皆さんに楽しんでもらえるイベントにしたいと思っています。

**宮本** 1日だけで終わらず、1か月「ジャズ月間」のようにして、ワークショップをやったり街角ライブなどできると面白いですね。

神奈川県川崎市で行われる「かわさきジャズ」は、ライブステージだけでなく昼間にジャズ講習会やトークイベントをやったり、メディア発表の場もあるんです。そういう「見せ方」もしっかりしていて、良いカタチだなと思っています。



「かわさきジャズ」の様子

**渡邊** 宮城県仙台市に「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」というイベントがあり、メインステージのほかにも、街中に小さなステージがいくつもあって、それこそチンドン屋みたいな人から一人でラップを吹く人まで何でもありで、なんだか街全体が楽しいねっという感じなんですよ。

あと、そのイベントは子どもたちの発表の場にもなっていて、子

どものうちに地域に関わる体験をすることが、何よりも地域の財産になっていくと思います。いま高校では、地域社会と関わりながら学びを得る「シティズンシップ教育」という考え方が広がっています。結城ジャズフェスティバルも、子どもたちが本物の雰囲気味わえるイベントになってほしいですね。



「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」の様子

**市長** 子どもの感性は本当に豊かですから、やはり小さいころから本物の音楽を聴いてほしい。音楽で心豊かな子どもたちを育てるという意味では、今回のジャズフェスがひとつのきっかけになると嬉しいですね。

最終的には、市民が自ら盛り上げて企画してやっていくことが一番ですね。それを行政が応援していくのが一番理想かなと思います。

そのために、高校生ぐらいから運営に直接関わるような経験をさせていくことも大事ですね。

高校・高専・大学とさまざまな学校がありますから、幅広い世代が集まったフレキシブルな実行委員会であってもいいと思います。

**渡邊** 結城は、サウンドフェスタが20年続いた下地があるので、地元の皆さんも受け入れてくださるのではないのでしょうか。

**宮本** イベントを盛り上げるには、プロだけでなくアマチュアや学生、市民のみなさんも巻き込んで、一緒に

令和4年  
新春座談会



楽しめるかが重要です。運営側も、行政だけでなく市民の力を結集させてやるというのは、本当に大切ですね。

「かわさきジャズ」は近隣都市と提携して開催しています。近隣に

住む生徒・学生を結城に呼んだり、逆に近隣のまちのステージを借りるとか、広域でつながっていくのは素敵ですね。

**市長** そうですね。何事もまずは、最初の一步を踏み出すことが大事ですね。

そして、長い目線で音楽文化を醸成していくには、やはり子どものころから“本物の音楽”に触れる機会をつくるのが大切だと思います。

次に、「小中学校からの音楽教育の充実」について、ぜひご意見をお聞かせください。

アマチュアや学生、市民を巻き込んだイベントは魅力的!

